

折に触れ 四字熟語

NO. 349 〔一炊之夢〕 いっすいのゆめ

＜意味＞ 人の世の栄華のはかないたとえ。人生のはかないたとえ。ひと炊きするほどのきわめて短い夢の意から。

＜出典＞ ちんちゅうき『枕中記』

故 事：中国の唐代、出世を望んでいた盧生という若者が、かんたん邯鄲の町で道士の呂翁りょおうから出世がかなうという枕を借りて寝たところ、よい妻を得、大臣となって富み栄え、栄華に満ちた一生を終える夢を見た。目が覚めてみると、宿屋の主人に頼んでおいた黄粱こうりょうが、まだ炊きあがらないほどごく短い時間であったという故事から。

用 法：成功も今は一炊の夢にすぎない。

一 言：12月6日の我が家の日めくりカレンダーには「邯鄲の夢」とありました。どちらも同じ意味です。たしかに私の81年を振り返ってみても、今思えばはかない夢のようです。

参照文献：岩波書店「四字熟語辞典」

7・12・21 弁本 純